



開物成務

令和6年11月29日(金)発行

校長 津田 千由美

“すてきさん”が『つくる・そだてる』じまんの学校

地域を生かした学習

立冬を過ぎたあたりから、朝晩はめっきりと冷え込むようになり、今年も、心地よい秋があったという間に過ぎ去ってしまいました。過ぎ行く秋を惜しみながら、学校の「秋」を振り返ります。

図書委員会主催による初めての試みとして、「読書の秋」にちなみ、11月7日(木)には、「好きなところで本を読もう」という異学年交流活動を行いました。昼休みに、読みたい本を一人1冊持参して、自分が読みたい場所で本の世界に浸るという取組です。

校長室にも各学年1人ずつの6人の子どもたちがやってきました。簡単な自己紹介の後、30分間たっぷり個々の世界に浸っていました。あまりの静けさに気持ちよくなったのでしょうか、1年生のある子は途中からウトウト…なんとも微笑ましい姿に、心がほんわかしみました。

各学年の授業でも地域の素材を生かした体験的な学びを取り入れ、「勉学の秋」が充実しました。

町議会の見学



6年生が、社会科の学習で町議会を見学しました。1学期には、国の政治や議会の仕組みを学んでおり、今回はその応用編です。自分たちの住む開成町では、どのように税金が使われ、どのように話し合いをしているのか等の疑問について、山本議長さんが丁寧に説明してくださりました。模擬議会を体験させていただいた学級もあり、町議会が子どもたちにとってより一層身近なものになりました。

「町議会に参加している議員さんは、町をよりよく、町民が住みやすい町にしようと努力していたことが分かりました。将来、選挙にしっかり投票しようと思いました。」

ある6年生の見学後の感想です。この体験を通して、自身も社会を構成する一員であるという自覚を高めていました。



おもてなし体験

11日11日(月)・

18日(月)の2日間、3年1組が総合の学習で「おもてなしプロジェクト」を行いました。

1学期の総合で開成町のことを学んだ子どもたちは、瀬戸屋敷で外国人の受け入れツアーを行っていることを知りました。開成町の良さや日本の遊びを知ってもらおうと、このツアーのボランティアガイドに申し込み、準備を進めてきました。

「ハローソング」でのお出迎えから始まり、ランチ用の食器準備、学校紹介、日本の遊びの紹介などをグループごとに行いました。

「はずかしがらずに自分から声をかけよう」など、それぞれの目標に向かって、一生懸命に活動していた姿が印象的でした。外国の方々も、小さな子どもたちのあたたかなおもてなしに、終始ニコニコしていました。すてきなお土産となったことでしょう。

手話の体験



4年生は、今、総合的な学習の時間に福祉について学んでいます。先日は、神奈川県立平塚ろう学校の先生をお招きしました。○×クイズで答えを見つけながら手話についての知識を学んだり、伝言ゲームで騒音下での聞き取り体験をしたり、2時間があったという間に過ぎていきました。最後には、手話を使って、絵本「まってる まってる」をグループ発表することができました。

「やってほしいことやお願いしたいことは、人それぞれ違うんだよ」という言葉が、とても印象的でした。障がいの有無にかかわらず、相手の気持ちを理解することや寄り添うことの大切さを学べたすてきな時間となりました。



「食欲の秋」です！ 開成小では通年、柳川栄養教諭が子どもたちへ向けて「ランチメモ」を発行しています。すてきなメッセージが盛りだくさん。今後、保護者の皆様にもその一部をご紹介します。子どもとの会話が盛り上がることまちがいなしです。





【5年生：ふれあいの村へ林間学校】



【1年生：秦野中央こども公園】



【2年生：わんぱくランド】

当日は天気にも恵まれ、子どもたちは、意気揚々とふれあいの村に出発しました。

『絆』を合言葉に、実行委員の子どもたちを中心に、活動の準備を進めてきました。互いに助け合ったり、声をかけ合ったりする姿がいろいろな場面で見られ、協力することや責任をもって仕事をする事の大切さを学ぶことができました。

1年生にとっては初めての校外学習です。公園でのルールをしっかりと守り、遊具で遊ぶ分遊びました。秋の収穫物をお土産としてたくさん持ち帰りました。

2年生は、広大なわんぱくランドの中にあるたくさんの遊びブースで、思いっきり体を動かしました。おかげで、おなかはずっぺこ。手作りのお弁当がとてもおいしかったそうです。

11月9日(土)、第2回目のクリーンデーが実施されました。多くの参加者が、側溝の泥上げや除草、花の植え込みなどをしてくださり、グラウンドや校舎回りが大変きれいになりました。

また、翌週には、開成町シルバー人材センターの方々が、北門の花壇周りの除草をしてくださいました。もうすぐ152歳になる開成小学校は、保護者や地域の方々によって大切に守られています。

わたしのひとりごと

昔はなかったけれど、近頃よく見られる光景があります。昨日帰るまではあんなに仲良かったのに、一夜明けると険悪ムード。話を聴くと、SNS上でトラブルがあったということでした。大人には見えないところで問題が起こり、自分達で解決もできずにいるのです。中には、「○○ちゃんがいるから、教室には行きたくない」と、大事な授業を受けられずにいる子もいます。すぐには解決できない難しい問題ですが、大人の心構えとして、一つ共有しておきたいことがあります。

高学年を受け持っていた時に、必ず子どもたちに伝えていた話があります。

ある宇宙飛行士が、「宇宙飛行士になるために一番必要なことは何ですか？」という子どもからの質問に答えていました。応えは「一緒に仕事をする仲間とたくさん会話すること」でした。想定外の言葉に、私はとても驚きました。

宇宙飛行士は、宇宙船という閉鎖空間の中で、使う言語も違えば、文化も異なる偶然出会った人たちと、長い時間仕事も生活も共にします。しかも、宇宙での仕事は、トラブルが起こるのが当たり前。トラブルの上にトラブルを重ねないために、コミュニケーションが一番大事というわけです。自分とは考え方の異なる人たちとも円滑なコミュニケーションがとれないければ、宇宙飛行士のミッションも達成することができないというのは、とてもうなずけます。

宇宙船を学校に置き換えるならば、子ども同士のトラブルに大人が手助けできることは、コミュニケーションの仲介役でしょうか。ゆくゆくは、子どもたち自身が互いの話にしっかりと耳を傾け、自分たちでトラブルを解決できるようにしたいものです。「たくさんの人たちと共に学ぶこと」は、小学校の大きな役割だと痛感する今日この頃です。

